令和 4 年 10 月吉日

各　　位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
交流企画部会長　柿沼太郎

国際島嶼教育研究センター第 224 回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第 224 回研究会を下記のとおり開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。

記

日　時：令和 4 年 11 月 7 日（月）16 時 30 分～18 時
会　場：総合教育研究棟 5 階　国際島嶼教育研究センター会議室
（〒890-8580　鹿児島市郡元 1 丁目 21-24）
中　継：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室
（〒894-0026　鹿児島県奄美市名瀬港町 15-1　奄美群島大島紬会館 6 階）
ＷＥＢ：Zoom
参加費：無料（通信費は参加者負担）

パプアニューギニアにおけるバナナの多様性とその利用について

小谷真吾（千葉大学文学部）

ニューギニアにおけるバナナ栽培は、人類史における農耕の起源や現代世界における品種の分布パターンを探る上で重要な研究対象である。本発表では、特にモロベ州マーカム川流域とセントラル州沿岸部の 2 地域の品種と栽培実践に焦点を当てる。この 2 地域では、バナナをカラプアグループとその他グループに分けることが共通している。カラプアグループは、ゲノム型が ABB、果実は短く角張っている、料理バナナとして栽培されるなどの特徴があり、ピジンイングリッシュ、およびいくつかの現地語でグループの名称として使われている。高地周縁地域の先行研究においてこのグループの利用はほとんど確認できないため、特に低地地域の人々にとって重要な品種群であると推定される。

カラプアとその他のグループの品種は異なった畑で栽培されていた。対象地域の人びとはグループ間で成長速度や気候への耐性が異なると考えており、畑の利用年数や混栽の有無はそのローカルノレッジの妥当性を裏付ける。栄養素分析を行った結果、炭水化物を除く栄養素がカラプアグループで比較的低いことが示された。両地域の人びとは、カラプアと他の品種を別の作物グループと認識し、生産・消費していると結論づけられる。つまり、カラプアは乾燥と洪水の両方に耐性があると考えられ、持続可能な主食として栽培されている。他のバナナは、栄養補助食品、現金収入の手段として栽培されていると考えられる。

【対面式でのご参加（要登録・人数制限あり）】

新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、ご自身の体調を十分お考えのうえ、ご参加ください。また、ご参加いただく際には、マスク着用等、感染防止にご協力ください。センター会議室は先着 15 名様、奄美分室は先着 9 名様とします。

対面式でのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールまたは電話にて 11 月 4 日（金）までにお知らせください。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、対面式を中止する場合もございますのでご了承ください。

お名前（必須）：
お電話番号（必須）：
ご所属先：
ご住所：
メールアドレス：
メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きのうえ、メールアドレスも必ず記入してください。

【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからご気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて 11 月 4 日（金）までにご連絡ください。Zoom の視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：
メールアドレス（必須）：
ご所属先：
ご住所：
メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

【ご連絡先】

対面式（申込期限：11 月 4 日（金））
センター会議室：shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 099-285-7394（担当：西）
奄美分室：amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 0997-69-4852（担当：財部）

オンライン（Zoom）（申込期限：11 月 4 日（金））
yotsuka@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：大塚）

（なお、対面式後の懇親会は、当面の間、開催いたしません）